



▲土のうによるかさ上げ

は一宮川からの溢水による浸水被害を軽減するため、緊急対策として土のうによるかさ上げを行ったところ。その後、土のうから構造物等の恒久的な堤防に整備していくことになっております。

早野明光地区では、台風等の大雨の際の内水排除として、日立駐車場付近に仮設のポンプを市が設置することになっており、河川等の見回りにおいて一宮川の水位とともに内水側の水位を注視し、ポンプの設置を行ってまいります。

また、本地区は冠水が頻繁に発生することや、堤防のかさ上げに伴う内水被害の拡大が懸念されることから、内水排除の対策を検討しております。

防災行政無線の増設について

Q 新茂原自治会内には2基の防災行政無線が設置されていますが、豪雨等の騒音時には聞き取りにくいので、国道128号豊田橋付近に増設をお願いしたい。

A 新茂原地区は、すでに2基の防災行政無線が設置されており、地区全域をカバーしておりますので難聴地区とは考えておりません。

今年度は、新茂原地区に隣接する川代地区の難聴解消のため、川代排水機場に防災行政無線を新設します。その際、4本のスピーカーのうち1本を新茂原方面へ向ける計画となっておりますので、新茂原地区の一部でも改善が見込まれると考えられます。

なお、災害時の重要な情報は「もばら安全安心メール」と「自動電話配信サービス」で配信しておりますので、聞き取りにくい方には登録を勧めております。

学校におけるいじめの問題について

Q 新聞に全国各県のいじめの件数が載っていました。千葉県が一番多くなっています。茂原市でのいじめの件数はどれくらいなのか。

A 茂原市では毎年、2桁の件数が報告されています。報告された件数の中で、いじめが解決しているものと、調査時点では解決ができていないものがあります。解決が最後までできなかつたいじめはないものと認識しております。

なお、全国の中で千葉県が一番多くなっているのは、いじめを隠すことなく軽いものまで報告がなされているからだという新聞報道もあります。

子育て支援事業のPRについて

Q 6か月乳児相談時に、読み聞かせをしながら2冊の絵本を赤ちゃんにプレゼントするブックスタート事業は、県内でも本場に誇れる制度だと思

います。いくつかの新しい事業をされていますので、もっと宣伝してほしい。

A 茂原市は、妊娠期から出産を経て子育てに至るまでの切れ目のないサービスを行っております。去年の12月に保健センター内に産前産後サポートセンターを開設し、助産師などによる妊娠出産に関する相談、産後のケア、育児相談などを行っておるところです。これは、茂原市が先進的にやっている事業だと思えます。

これについては、広報やホームページ、フェイスブックなどでお知らせしていますが、これだけでは足りないと思いますので、何か工夫をしたいと考えております。



▲ブックスタートパック

空き家問題の現状と対策について

Q 県内では空き家条例が発布され、空き家バンクおよび空き家相談員というものが設置されているところもあるが、市はどのような対策をとっているのか。また、空き家問題の現状が分かれば知りたい。

A 空き家が増加する原因は、住宅需給のバランス、大都市への人口移動、相続等のさまざまな複合的要因に起因するものでありますが、その根幹は、やはり少子高齢化という社会構造が大きな要因であると考えております。

また、空き家が増加すること、景観や治安、衛生等の悪化を引き起こすものと危惧しているところ。空き家の撤去が思うように進まない理由は、空き家を解体、撤去し更地にするなどで、土地が住宅用地特例の対象から除外されることにより固定資産税の税負担が増すことや、解体費用に高額な費用がかかることなどが考えられます。空き家に関する条例の制定につきましては、平成27年5